Benesse Foundation
for Children
Annual Report
2021

公益財団法人 ベネッセこども基金

アニュアルレポート 2021

報告対象期間：
2021年4月～2022年3月

特集01

学びに困難を抱える子どもの
現状を発信し
ともに解決策を考える

特集02

学ぶ土台づくりの教材を
学習支援の共通課題解決への試み

子どもたちが
自らの可能性を
広げられる
社会を目指して

私たちは、
未来ある子どもたちが安心して
自らの可能性を広げられる
社会を目指し、
子どもたちを取り巻く
社会的な課題の解決および
多様な学びの機会の
提供に取り組みます。

子どもの
安心・安全を
守る活動

経済的困難を
抱える子どもの
学び支援

病気・障がいを
抱える子どもの
学び支援

よりよい社会づくりに
つながる
学び支援

被災した
子どもの学びや育ちの
支援

ベネッセこども基金は、
自らが企画実施する「自主事業」と、
地域でテーマに沿った子ども支援に取り組む団体への
「助成事業」を通じて、
子どもたちを支援しています。

理事長ごあいさつ

ベネッセこども基金は、2014年の設立以来、「子どもたちが自らの可能性を広げられる社会」の実現を目指し、経済的困難や重い病気などの困難を抱える子どもの学びの支援や、子どもを取り巻く社会や学習環境の改善に取り組んでまいりました。ご支援、ご助力いただきました皆様には、深く感謝申し上げます。

2021年度も、2020年度に引き続きコロナ禍にありましたが、困難にできるだけ適切に対応し、必要とされる支援を行うべく活動を実施してまいりました。支援を必要とする子どもたちとそのご家族のために、多様なセクターと手を取り合いながら、解決の方法を模索していくことの重要性を感じております。

助成事業では、これまでの積み上げにより、モデル性のある団体の取り組みが地域に根付きつつある「経済的困難を抱える子どもの学び支援活動助成」「重い病気を抱える子どもの学び支援活動助成」を実施しました。「経済的困難を抱える子どもの学び支援」は、2019年度から開始した最大3か年助成の3年目を終えて、複数年助成ならではの成果を出すことができています。

自主事業においては、学びのプロジェクトの実施やコンテンツ開発、社会発信など、知見ある団体と複数年にわたってともに積み上げてきた活動が実ってきていることを実感しています。

2021年度は、今後を見越した新たな取り組みの芽をつくった1年だったと思います。これからも団体共通の課題解決、そしてよりよい社会の実現に向けて、活動を進めてまいります。

今後とも皆様からのご支援・ご指導をどうぞよろしくお願い申し上げます。

公益財団法人
ベネッセこども基金　理事長
五十嵐 隆

国立成育医療研究センター理事長
東京大学医学部医学科卒業。
同小児科、東京大学大学院医学系研究科
小児医学講座小児科教授などを経て現職。
こども環境学会会長、
ドナルド・マクドナルド・ハウス財団理事長、
中山人間科学振興財団理事長、日本保育協会理事、
日本小児医学研究振興財団理事など。

01

特集01：活動成果の発信：ベネッセこども基金MeetUp

学びに困難を抱える子どもの現状を発信しともに解決策を考える

MeetUp2021#1
「院内学級プロジェクト成果報告会」の様子

ベネッセこども基金MeetUpとは？

ベネッセこども基金MeetUpでは、子どもを取り巻く社会課題をより多くの方たちに知っていただき、多様な関わりを増やし、解決策について一緒に考えるきっかけとなる場を目指しています。

多職種の方たちとの関わりを増やす

子どもを取り巻く社会課題は多様化·複合化してきており、単独の団体だけではそのすべてを解決することは困難です。そのため他分野·多職種の方がお互いに関われる関係性が必要になります。

社会課題をマンガでカジュアルに発信！

専門家や実践者ばかりでなく、はじめて子どもの社会課題を知り、関心を持っていただく方を増やすためマンガを取り入れました。カジュアルな方法で子どもたちの学びの現状を知りMeetUpにご参加いただくことで支援者や共感者が増え、課題解決につながることを目指しています。

ベネッセこども基金MeetUpの3年間の変遷

ベネッセこども基金の設立5周年イベントとして始めたMeetUp。
3年間で当財団が取り組む重要テーマを扱ってきました。
オンライン化、マンガや参加者交流会など、手法も試行錯誤しながら変遷してきました。

2019

社会課題発信イベントをはじめて開催

ベネッセこども基金の設立５周年で、成果報告会として関係者をお招きし、協力団体とともに対面イベントを開催

2019年度 5周年MeetUp登壇者

- #1 吉藤オリィさん
  「テクノロジーで病気を抱える子どもや障がいのある人の課題に挑戦！」（10月25日）
- #2 石川千明さん
  「子どものネットトラブルの現状と対策」（10月28日）
- #3 武田信彦さん
  「子どもも大人も自分の身は自分で守る！～護身術指導つき～」（11月6日）
- #4 マセソン美季さん
  「インクルーシブな社会の実現に向け、教育現場に期待すること」（11月26日）
- #5 青砥恭さん、李炯植さん、木村治生さん
  「経済的困難を抱える子どもを支援する団体の現状と調査の結果から見える子ども支援の現状」（12月10日）

2020

コロナ禍でオンライン型のイベントに

新型コロナウイルス感染拡大の影響で、会場での対面イベントが困難となり、オンラインイベントが中心に

2020年度テーマ

- #1 児童養護施設の子どもの学びの現状（8月3日）
- #2 外国につながりのある子どもの学びの現状（12月15日）

2021

参加者同士が交流できる場所に

登壇者が一方的に話すだけでなく、イベント後半では参加者同士がテーマごとに分かれて質問や交流ができるように

2021年度テーマ

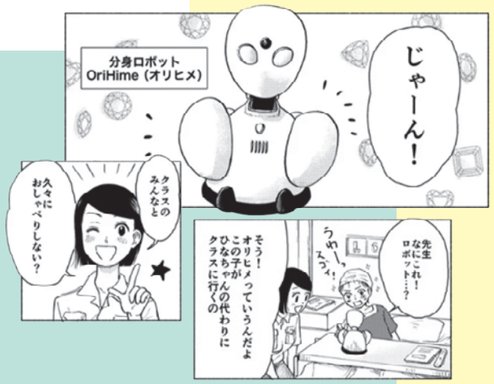
- #1 院内学級プロジェクト成果報告会（8月19日）
- #2 社会的養護のもとの子どもの現状と課題（12月6日）
- #3 子どもの権利って何だろう？子ども支援の現場から「子どもの権利」を考える会（3月19日）

さらに……

》社会課題×マンガ

専門家や支援に関わる方だけでなく、より多くの方に興味を持っていただくため、社会課題をマンガで知ってもらう告知をスタート！

「院内学級プロジェクト成果報告会」の社会課題×マンガ
URL：https://note.com/kodomokikin/n/n45ad0a6857f0



Close Up 2021

2021年度に開催したMeetUpの内容をご紹介します。

MeetUp #1

MeetUp # 1 の様子

院内学級プロジェクト成果報告会（8月19日）

登壇者（団体）名

オリィ研究所 … 吉藤オリィ様、結城明姫様
東京都立光明学園 … 田村康二朗統括校長
東京都墨東特別支援学校 … 久保田智子先生
元東京都立小平特別支援学校 … 田添敦孝先生

参加者数 312名

東京都特別支援学校5校との約5年間の実証実験の結果、分身ロボット「OriHime」を活用した病弱教育の新たな学習モデルが認められ、2021年度から東京都にて実導入されたことを報告。学校関係者とともに、入院中の子どもたちの学習保障の問題や、分身ロボット「OriHime」を活用した授業事例などを紹介しました。新しくできた分身ロボットカフェの会場からの配信だったこともあり、未来への希望につながる議論が広がりました。

登壇者メッセージ（久保田智子先生）

具体的な授業の様子や、関係者に聞いた声を紹介しました。東京都以外の関係者からも、病院と学校とをつなぐ学習モデルを実現させたいと、熱心なご質問をいただきました。より多くの地域で病気療養中の子どもに学びが届くよう願っております。

MeetUp #2

MeetUp # 2 の様子

社会的養護のもとの子どもの現状と課題（12月6日）

登壇者（団体）名

児童養護施設子供の家　施設長 … 早川悟司氏
NPO法人HUG for ALL　代表理事 … 村上綾野氏
NPO法人チャイボラ　代表理事… 大山遥氏

参加者数 202名

児童養護施設の施設長より、社会的養護のもとの子どもの現状について、虐待の社会的な背景や市民の役割も含めてお話しいただきました。後半は、児童養護施設の支援をしている当財団の助成団体の代表の方々にもご登壇いただき、児童養護施設などで育つ子どもたちの支援に地域や団体としてどう関わればよいか、具体的な事例を交えて議論を深めました。

登壇者メッセージ（大山遥氏）

このMeetUpでは社会的養護の子ども支援について実践者たちとセッションができるなど、アイデアを広げるよい機会となりました。またイベントの参加者の方々から団体への寄附をいただいたり、ボランティアに参加いただいたりと、新たなご縁をいただくことができました。

MeetUp #3

MeetUp # 3 の様子

子どもの権利って何だろう？

子ども支援の現場から「子どもの権利」を考える会（3月19日）

登壇者（団体）名

子どもの権利条約ネットワーク事務局長 … 林大介氏
子どもの権利を学ぶ会主催者 … 宮本聡氏
認定NPO法人ポケットサポート … 三好祐也氏
NPO法人
在日ブラジル人を支援する会（サビジャ）… 千葉明子氏

参加者数 248名

子どもの権利の専門家から「子どもの権利とは何か－大人たちがすべきこと」をテーマに基調講演をいただきました。当財団の助成団体にもご登壇いただき、重い病気や経済的困難の各領域における「子どもの権利」について具体的な事例を紹介していただきました。イベント後には参加者同士や登壇者とフリートークできる時間を設けました。テーマごとに活発な意見交換があり、支援者同士のつながりを増やすことができました。

登壇者メッセージ（千葉明子氏）

MeetUpでは外国にルーツのある子どもの学びの現状や課題について団体の活動事例をもとにお話しさせていただきました。様々な職種の方とお会いできましたが、子どもの権利という視点では共通点も多く、領域横断的な学びの機会となりました。

参加者の声

ベネッセこども基金MeetUpに参加された方たちからの声も一部ご紹介いたします。

Voice 1　MeetUp#1　参加者

美談ばかりでなく、失敗談も含めて事例の数を増やすことや周囲への配慮や理解を広げることが大切だと感じました。先生方の強い情熱に勇気をいただきました。（医療関係者）

Voice 2　MeetUp#2　参加者

社会的養護の全体像を知ることができました。児童養護施設も地域に開いてNPOなどの団体とつながっているのですね。よい事例を聞くことができました。（学校教員）

Voice 3　MeetUp#3　参加者

子ども支援団体として「子どもの権利」は知っていましたが、具体的な事例をお聞きして、私たちの団体に足りない視点をいただくことができました。（子ども支援団体スタッフ）

02

特集02：経済的困難を抱える子どもの学び支援：自主事業

学ぶ土台づくりの教材を

学習支援の共通課題解決への試み

学びの土台からの支援が必要
団体共通の悩みに着目

「学校の課題以前に、学びの土台が不足していて、学びが積みあがらない。適した教材もなく支援に困っている」。助成事業を通して、全国の経済的困難を抱える子どもの学習支援団体とのつながりが生まれる中で見えてきた団体共通の課題です。無料学習支援のパイオニア、認定NPO法人キッズドアとともに、団体共通のこの課題を解決する方策として、「学ぶ意欲」と「言葉の力」を育む教材を制作し、全国の非営利の学習支援団体への無償提供を始めました。

事業の背景

「怠けているわけではない」学習以前の課題

経済的困難を抱える家庭では、教育の環境が整わなかったり、適切な支援が受けられなかったりするために、学力面での後れや、学ぶ意欲が低いことが多くあります。経済格差による学力格差の問題が認知されるにつれ、無料学習支援を行う団体が全国に増えてきました。
ただ、学習支援現場では、子どもを見守り支援する居場所としての機能はもてても、なかなか学力の向上につながらないという団体共通の課題が浮かび上がりました。「怠けやさぼり」ととられがちな学びへの意欲の低さも、その背景には「学び」の土台となる力の不足があるとみて、ベネッセこども基金の自主事業として、この課題に長年無料学習支援に携わっている認定NPO法人キッズドアと共に取り組みました。

学校
課題をやってこず怒られ意欲・自己肯定感減退。
「言われたこと」が理解できない。

学習
質問の意味がわからず課題が進まない。
できない体験を積み重ねてしまう。

支援者
学びが積みあがらない。宿題の前にやることがあるのでは…。
指導への手ごたえを感じられず、支援に自信が持てない。

対人関係
約束を忘れたり、気持ちを表現できず信頼を失いがち。
会話から大事なことを抜き取れない。

解決策

言葉の力を楽しく伸ばす教材を制作・無償提供へ

KIDSDOOR NPO法人 キッズドア
公益財団法人 ベネッセこども基金

解決策となる教材案提供 ― 制作支援
↓
同様の課題を抱える団体への提供

中学生の生徒の様子の分析や、専門家へのヒアリングを通して、人の話を注意深く聞く、文章を読む、自分のことを伝えるなど、言葉やコミュニケーションの力の不足が、学びのつまずきに影響していることが見えてきました。この課題に適した市販教材がないことから、キッズドアが教材案を、ベネッセこども基金が制作支援をする形で、教材パッケージ化し、同様の課題を抱える団体へ無償提供することになりました。

Interview

認定NPO法人
キッズドア
執行役員
松見幸太郎

認定NPO法人
キッズドア
チーフコーディネーター
草野くる美

適した教材で、学びの意欲を自然に引き出す

認定NPO法人キッズドアは経済的困難を抱える子どもたちへの無料学習支援を15年にわたって行ってきました。当団体で出会う中学生の中には、言葉の力不足により、学年相応の教材での学習では難しすぎ、かといって小学生にさかのぼった教材では子どもの自尊心を傷つけ、学ぶ意欲も上がらないという状況の生徒が多くいました。
受験指導や学校の課題を頑張る前に、意識して人の話を注意深く聞く練習や、少し抽象度の高い語彙に出会い、「なんとなく知っている言葉」を楽しく増やしていける教材が、そのような子たちには必要だと常々感じており、この教材を制作するに至りました。

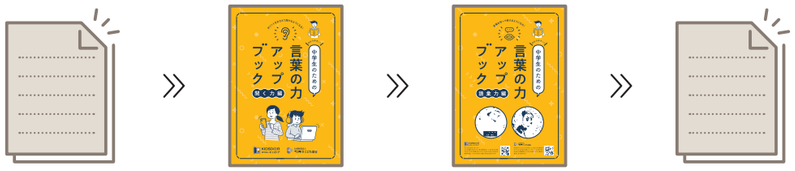
「言葉の力アッププログラム」内容と特長

基本的な読む力、聞く力、語彙力に課題がある、受験指導前の中学生を主な対象とし、4つのステップで生徒の状況に合わせて学ぶ意欲と言葉の力を伸ばし、受験指導の素地を作ります。支援経験が少なくても学習者の学力や状況に応じて効果的に指導できるよう、支援者向けの研修動画やマニュアルも提供しています。
メインテキスト「言葉の力アップブック」は聞く力編と語彙力編の2部構成となっています。

教材構成

生徒用　4ステップで楽しく聞く力と語彙力を伸ばし、力の伸びを実感

STEP 1 事前アセスメント　≫　**STEP 2** 聞く力編　≫　**STEP 3** 語彙力編　≫　**STEP 4** 事後アセスメント



指導者用　支援経験が少なくても効果的に指導

≫ 支援者研修動画　≫ リスニング音声データ　≫ 支援者マニュアル（解答含む）

配布実績　全国の非営利学習支援団体のべ104団体約2700部

利用者の声

学習になかなか向かえない生徒も日本語の聞き取りやマンガなど、いつもと違う学習内容に興味を示し、比較的意欲的に取り組んでくれました。

1回15分とのことですが、なかなか15分ではできない子もいて、研修動画やマニュアルを参考にしたり、マンガを声に出して読んで演じたり、その子に応じて使っています。

『言葉の力アップブック』構成

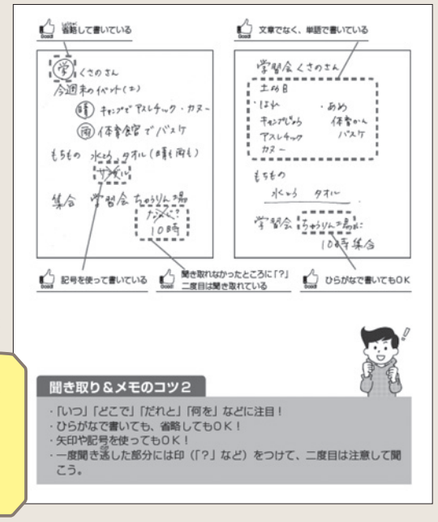
「言葉の力アップブック」は1冊の中に「聞く力編」と「語彙力編」が入っています。

≫ 日常に直結した 聞く力 編

聞く力編は言葉の力に特に課題のある生徒向けに、日常会話の音声を聞き、必要な情報をメモを取る練習をします。

POINT 1　「イベントの案内」「友達と遊ぶための待ち合わせの約束」など、生徒自身の日常に近い内容にすることで、実践的な練習となるように留意。

POINT 2　日常にも使える注意深く聞くための「聞き取りポイント」を意識させ、メモを取るよう指導。



メモの取り方を真似したり、生徒の取ったメモを褒めたりすることに役立つ、メモの実例つきです。

≫ マンガで語彙に出会い調べる経験を 語彙力 編

語彙の獲得には日常的に多くの語彙に出会うことが重要ですが、マンガで語彙に出会うことは、読解に苦手意識のある生徒に効果的です。【語彙力編】は中学生で覚えておきたい語彙約60語が盛り込まれたマンガを読むことで、言葉の意味を確認しながら読む練習ができます。

POINT 1　受験につながる中学生で出会ってほしいやや難しい語彙がちりばめられたオリジナルマンガ。

POINT 2　「分からない言葉は調べる」という学習行動の練習や指導ができるよう、語彙の意味2択問題や、辞書的なページを掲載。

今後は改善を加えつつ、より多くの同様の課題を抱える非営利団体に活用いただけるよう認知を広げ、効果の検証も進めていきます。また、経済的に困難な状況にある子どもたちの学習支援の現状を広く知らせる活動を行っていきたいと考えています。

お申し込みに関する情報はこちら
学校の長期休みごとに、教材配布を受け付けています。

自主事業

子どもの安心・安全を守る活動

子どもの安心・安全な環境づくりのための支援プログラムの無償提供を、財団設立当初から実施しています。2021年度は、ネット利用の低年齢化やGIGAスクール構想の広がりにより、学校現場からのネットリテラシー教育へのニーズが高かったことが特徴的でした。

教育プログラムの開発・普及

防災

保育園・幼稚園向け

防災教育紙芝居
「じしんのときのおやくそく」
全国の保育園・
幼稚園等配布数＊
のべ約 12,000 園

防犯

小学校
低学年向け

子どもの安全・安心
ハンドブックと
安全教室実施パッケージ
全国の小学校等配布数＊
のべ約 43 万部

ネット

小学校
中・高学年向け

初めてのスマホ安心ガイドブックと
安全教室実施パッケージ
全国の小学校等配布数＊
のべ約 57 万部

＊配布数はすべて2022年3月時点

2022年度は　学校現場以外も含め、より多くの方に活用いただけるよう、引き続き普及の拡大を目指します。

経済的困難を抱える子どもの学び支援

助成団体の共通課題の解決に貢献するために、知見あるセクターと協業して支援施策に取り組んでいます。

学びの質向上

KIDSDOOR NPO法人 キッズドア
連携
公益財団法人 ベネッセこども基金

経済的に困難な状況にある子どもの学習支援領域において、先進的な団体「認定NPO法人キッズドア」と連携して、学習支援団体共通の課題である「学ぶ意欲」と「言葉の力」の向上をねらいとした中学生向け教材を制作。テスト配布を実施し、活用方法や効果を検証。

事業評価の模索 事業評価研究会の発足

助成団体
↑
Learning for All
連携
公益財団法人 ベネッセこども基金

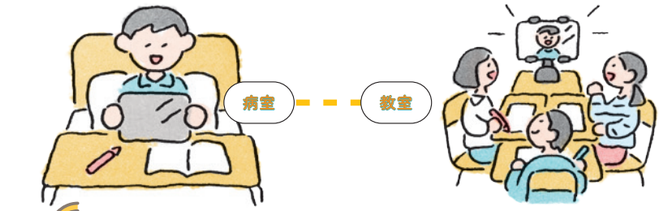
団体の活動を促進するための事業評価手法を、先進的な取り組みを実施している特定非営利活動法人Learning for All とともに実施。助成団体の事業活動を支援した。

2022年度は　学びの質向上・課題の社会発信に取り組みながら、助成団体間の知見の交流を後押しし、団体共通課題の解決を支援していきます。

病気・障がいを抱える子どもの学び支援

重い病気や障がいによって、学びに対するサポートを必要としている子どもとその保護者に対して、病院・学校・活動団体や専門家等と連携し、有効な学びのモデルづくりや情報提供などを行っています。

より普及しやすい学び支援ツールの開発へ



タブレットを通じて病室と教室がつながる

分身ロボット「OriHime」の成果を受け、より多くの学校で活用してもらえるよう、新しい支援ツールの開発に着手。学校からの要望をお聞きし、開発テストをくり返す中で、同じビジョンを持つ専門性の高い団体と協働で開発や普及に取り組むようになった。

2022年度は　2019年度の助成事業でモバイルWi-Fiルーターを配布した特別支援学校33校からモデル校を選定し、汎用的なICTツールを活用した学びの成功事例をつくり、全国に発信します。入院中の子どもが継続的に活用できるモデルを目指します。

よりよい社会づくりにつながる学び支援

先進的な取り組みを行っている団体とともに、子どもたちが、地域やコミュニティに主体的に関わり、社会をよりよくしていく一員としての役割を果たすことができる力を育む活動をしています。

メセナアワード 2021受賞

親子でチャレンジ
国際理解！
ちびっこおえかき
コンテスト

MECENAT AWARDS 2021

認定NPO法人グッドネーバーズ・ジャパンと共催した国際理解のコンテストでメセナアワードを受賞。

東京2020 パラリンピック 選手村マンガ制作

東京2020五輪・パラリンピック組織委員会の依頼を受け、共生社会にむけての工夫を知ることができる「東京2020パラリンピック選手村の工夫を探ろう！-選手村を通して共生社会について考える-」を制作しWEB公開。

高校生英語ディベート世界大会（WSDC）

予選ラウンド5勝3敗で悲願の決勝トーナメント進出！

オンライン開催の中、
日本代表は、史上初の
決勝トーナメント進出！
過去最高の実績を記録

一般社団法人全国高校英語ディベート連盟（HEnDA）の国際委員会と共同で、日本代表チームの国際大会への派遣事業などを企画・運営。

2022年度は　様々なセクターとともに、よりよい社会づくりにつながるテーマを企画し、実行していきます。

助成事業

「経済的困難を抱える子どもの学び支援活動助成」「重い病気を抱える子どもの学び支援活動助成」について、各地域で子ども支援に取り組む団体への助成支援を実施しました。

経済的困難を抱える子どもの学び支援活動助成

経済的困難がもたらす あらゆる格差に根本的な解決を

経済的な困難を抱える多様な子どもの課題に対して、支援団体の事業基盤の強化や新たな事業へのチャレンジなど、中長期視点で課題に取り組む団体の活動に対して、最大3カ年の助成を実施しています。複数年助成を開始した3年間で、20団体を支援しました。

》支援事業例

- 学習支援
- 学びの意欲向上
- 子どもの居場所
- 外国ルーツの子ども
- 訪問支援
- 支援基盤整備

領域全体の現状と課題

子どもたちは、教育や体験の機会に乏しく、地域や社会から孤立しがちで、様々な面で不利な状況に置かれています。子どもの困難さも多様化、複雑化していること、また地域ごとに課題の特徴や深刻さが異なることから、地域全体での支援が求められます。

※1 出典：「国民生活基礎調査」（厚生労働省）
※2 出典：「外国人の子供の就学状況等調査（令和３年度）」（文部科学省）
※3 出典：資料集「社会的養育の推進に向けて（令和４年３月31日）」（厚生労働省）

子どもの貧困 約7人に1人※1

外国ルーツの子ども約13万人※2

社会的養護児童 約4万2千人※3

経済的困難を抱える子どもの一例

外国ルーツの子どもの一例

外国ルーツを持つ子どもが直面する問題の一つは「日本語の習得」です。日本語が十分ではないため、学習内容を理解できず学習意欲を失ったり、友達とコミュニケーションをとることができなかったりして、不登校になるケースも見られます。また、ダブルリミテッド（二か国語以上話すことができるが、どの言語も適切なレベルに達していない状態）が原因で、学力不振や、親子の会話が深められず家庭での関係性を構築できないなどの支障が発生します。

社会的養護の子どもの一例

経済的困難を背景とした虐待などにより社会的養護の対象となった子どもは、適切な養育が受けられなかったことにより生じる発達のゆがみや心の傷を持つことで、自己肯定感が低いケースがあります。
自己肯定感を回復させるには特定の一貫した大人による継続的な個別支援が必要ですが、職員不足により十分な支援ができていないケースも見られます。

子ども支援の展望

信頼できる人と居場所で子どもを孤立させない 地域資源を活用した支援を

多様な「学び」、安心できる「居場所」を提供

経済的困難を背景に、教育や体験の機会が乏しいとされている子どもたちには、教科学習の支援だけではなく、探究活動やスポーツ、文化体験など多様な「学び」の提供が重要です。また、地域から孤立せず、自己肯定感を養うための「居場所」の存在も欠かせません。地域セクターが連携・協力して地域全体で子どもを見守り育てる支援が全国的に広がっています。

CASE 01

一般社団法人 ユガラボ 》居場所と学習支援

- 学習支援
- 子どもの居場所

「ゆがわらっことつくる多世代の居場所」は、子ども達の「本音で語り合いたい」「安心してありのままでいられる場所がほしい」という願いから生まれました。2016年に開設し、子ども宅食便や多様な学びイベント、個別学習支援などを実施しています。コロナ禍では、オンラインの居場所も開設しました。また、中高生が落ち着いて学習できる拠点を新設するなど支援が広がっています。多世代の人々がそれぞれの持ち味を発揮し、共創できる場づくりを通じて、誰もが自分の可能性を信じ、挑戦し、応援しあえる社会の実現を目指しています。

持続可能な支援を

→運営資金調達や人材育成などの団体基盤強化

→地域ネットワークによる支援モデルの確立へ

団体の活動が地域に根付き持続していくためには、安定した運用基盤を確立する必要があります。ファンドレイズやスタッフの質向上は、短期間ではなし得ません。中長期視点で自立的な事業継続・発展を目指すために、計画的に運営基盤を強化することに取り組み、持続可能な支援を可能にします。

CASE 02

特定非営利活動法人 HUG for ALL 》組織基盤強化

- 基盤整備支援

「すべての子どもが安心できる居場所を持ち、生きる力を育むことができる社会をつくる」ことを目的に、児童養護施設で暮らす子どもたちの学習・体験・進路支援を行うHUG for ALLは、本助成を活用して事業を継続的に安定して運用できる組織基盤強化を実施しました。
1年目：スタッフを組織化しチームごとに事業を推進。寄付基盤整備（寄付者へのお礼レター発送等）を実施。目標寄付額達成。
2年目：団体サイトの改定やSNSを活用した広報を開始。ボランティア希望者の自然流入が増えるなど、団体発信力の強化を実現。
3年目：広報チームを立ち上げ、SNS更新やイベントの定期開催を実現。社会的養護の課題や団体の認知向上の基盤整備を完了。

サイト改定後、ボランティアの自然流入が増加！

先駆的な取り組みや成功事例を全国へ：
ベネッセこども基金MeetUp開催

MeetUpの詳細は【特集1】P3

※各団体の活動内容は、ベネッセこども基金サイトからご確認いただけます。

経済的困難を抱える
子どもの学び支援活動助成

活動団体紹介

特定非営利活動法人
シェイクハンズ

所在地：愛知県

学習支援教室を実施しながら生きる力をつけるための子ども農園を実施。地域を巻き込み、農福連携のコミュニティ農園に発展させた。また子どもネットワーク会議を運営し、地域の支援力を上げる活動も実施。

外国ルーツの子ども

活動内容

ネットワークを作り、地域性を生かして生きる力を育む場を作りあげた3年間のあゆみ

2019年に始まった、複数年助成という枠組みの「経済的困難を抱える子どもの学び支援活動助成」の第1期3か年が終了しました。複雑化する子ども支援の課題解決は単年度では難しいことが多く、複数年じっくり腰を据えた計画と支援が必要だと考えたことから始まったこの枠組み。途中コロナ禍など想定外の困難もありながら、子ども支援の課題解決に向き合い、成果を積み上げてきた3年間の一例をご紹介します。

課題

- 貧困率の高い外国人散在地域
- 支援の不足から子どもと家族が孤立
- 学びと社会的体験の不足

解決策

事業名：
生きる力を育む学びの場と尾張北部地域の子ども支援ネットワークづくり

- 学習支援の居場所に加え、内発的な意欲を引き出す体験を通して生きる力を育む場を地域性を生かして作りたい
- 同様の支援団体とネットワークを作り、地域全体の支援の底上げをしたい

2019

農業体験

農園体験で子どもに意欲を

日本語や勉強がつらくても、みんなで作る畑は楽しい！

【工夫点】
- 耕作放棄地を子どもコミュニティ農園に
- 学習支援に来ている子がお世話

【成果】
- 畑仕事が学習支援教室へ来るモチベーションに
- 作物を市場で売る社会体験も

ネットワーク

外国ルーツの子を地域で育てるネットワーク作り

- 国際交流団体や子育て団体に声をかけ、10団体と行政担当者でネットワーク会議スタート
- 様々な問題の解決スピードや解決策が増えた

2020

農業体験

子ども・家庭　と地域がつながる

【工夫点】
- 地域、家族の巻き込み

【成果】
- 地域の方が農業指導をしてくれたり、通りすがりの方が声をかけて顔見知りになったり自然な交流が生まれた
- 畑仕事や料理など、子どもだけでなく、家族とのつながりもでき、地域社会の一員に

ネットワーク

団体を超　えてノウハウ共有

- 多文化共生フォーラムin尾北」開催
  課題、各団体の事例･ノウハウ共有

顔が見える関係性で、　団体を超えた協働が進む。

Interview

特定非営利活動法人
シェイクハンズ代表
松本里美

3年間を助走期間として、さらなる課題解決へ

一つの学習支援教室から、農園を中心にした子ども、家族、地域が自然と交流する地域を作ったシェイクハンズさん。一地域にとどまらず広域のネットワークも3年間で確立し、ノウハウや人材を交流することで地域全体の支援の底上げも実現させました。
助成終了後の2022年からは新しく広い拠点に移り、課題と成果を共有している市とも連携しながら、次なる課題と捉えている低学年の初期指導に力を入れようとされています。

コロナ禍で、オンラインになったことで広がったネットワークも。

2021

農業体験

居場所と学習支援の相乗効果で「学び」に成果

【工夫点】
- 行政と連携し
  大人向け多文化農園に拡大

【成果】
- 農園が口コミで広がり、自然な広報ツールに
- 団体の認知も拡大し、支援者が増加
- 居場所づくりと学習支援の相乗効果で進学率などの成果につながった

今では大学からの体験や、ボランティアの広がりも

ネットワーク

支援者が拡大し、地域全体の支援力アップを実現

- ネットワーク会議に他地域や県外の先進団体も加わり、情報交換・人材育成の場に
- フォーラム第二回を実施。ノウハウ共有の拡大
- 学校関係者によるボランティアなど、支援者･理解者が拡大
- 支援の空白地域にも、新たな団体が立ち上がった

重い病気を抱える子どもの学び支援活動助成

病院、学校、支援団体とともに学びや体験のモデルづくりへ

重い病気により長期入院や長期療養をしている子どもの意欲を高め、学びに取り組む手助けとなる団体の活動に対して、過去7年間でのべ50団体を支援してきました。

≫支援事業例

- 学習支援
- 調査・啓発
- スポーツ・文化体験
- 病気への理解支援
- 食育

領域全体の現状と課題

難病の子ども 約15万人※1

医療的ケア児 約2万人※2

病気を理由に長期欠席した小中学生約4.4万人※3

医療の進歩とともに助かる命が増えた一方で、長期的な治療や医療的なケア（人工呼吸器による呼吸管理、たんの吸引など）が必要な子どもの学びや体験の機会が十分ではありません。成長に応じた学びや遊び、音楽や美術にふれること、家族以外の人との交流なども大切です。困難を抱える子どもの学びの必要性を多くの人々に知っていただくこと、また困難さの解決に向けた問題提起やユニークな視点を含んだ支援策、同じ課題に取り組む人たちが参考にできるモデルとなる活動を全国に普及させていくことが重要です。

※1 出典：「第1回小児慢性特定疾病対策等の基本方針検討会」（厚生労働省）
※2 出典：「第17回医療計画の見直し等に関する検討会」（厚生労働省）
※3 出典：「令和2年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果」（文部科学省）

患者である前に高校生　～就学時に長期入院が必要になった高校生の一例～

病気発症～入院生活開始

突然病気を発症した子どもはショックを受けたまま辛い治療を開始。慣れない入院生活によるストレスを抱えたり、辛い治療による見た目の変化など、心身ともに辛い状況になります。

長期の入院生活

義務教育課程ではない高校生向けの院内学級はほぼないため、休学・退学による学習空白が発生。高校は出席日数や単位履修で進級や卒業が認められるため、留年を余儀なくされる場合もあります。希望する進路を諦めるケースもあり、将来に対する不安が大きくなります。

退院～復学

退院＝病気の完治というわけではありません。退院後も通院しながら自宅療養を続け、もとの生活に戻していく場合が多いです。体力を回復させることや入院中の学習の遅れを取り戻すことだけでなく、学校や友人など周りの理解や協力を得るには、想像を超える困難さがあります。

一人ひとりの子どもの状態に寄り添った『学び』支援を病気を抱える子どもの支援の輪を広げるために

「学び」や「体験」を止めない

病気を抱える子どもたちは安定しない体調や治療への不安とともに、進学や復学ができるのかという不安も抱えています。また体調や様々な制限により、体験を諦めるケースも少なくありません。学びや体験を諦めることのない支援方法を、各団体が工夫して取り組んでいます。

CASE 01

勇者の会　≫ 学びを止めない オンラインで遠方の子どもも支援

学習支援

入院や自宅療養により遅れてしまった学習を支援するために、2017年北海道に団体を設立し、幼児から高校生まで幅広い年代の子どもたちを支援しています。学習支援場所は、札幌市内にあるホテルのレンタルルームなどを利用しています。また、オンラインによる学習支援も併用し、感染症リスクが高い病気の子どもたちが安心して学習できる環境に配慮しています。札幌まで通うことができない遠方に住む子どもたちの支援も開始するなど、学びを止めない活動を続けています。

感染症の不安がない
レンタルルームで勉強

理解者、支援者を増やす

病気を抱える子どもや家族が抱える困難さや課題について知ってもらおうと、当事者の想いや支援方法をシンポジウムなどで発信したり、参加者と意見交換をしたりしながら、理解者、支援者を増やす取り組みも多くの団体が実施しています。

CASE 02

特定非営利活動法人 i-care kids京都

病気への理解支援　食育

≫ 医療的ケア児に食べる楽しみを

i-care kids京都が運営する医療的ケア児を積極的に受け入れる小規模保育園「キコレ」では、五感を通した豊かな『食の体験』を大切にし、園庭栽培した野菜を子どもと一緒に収穫、調理するなど、食育プログラムを年間を通して実施しています。「医療的ケア児×食べること」をテーマに実施したシンポジウムでは、医療的ケア児のご家族をはじめ、保育、療育、医療、福祉、教育、行政など多様なバックグラウンドの方々が一堂に集まり、医療的ケア児が安心して楽しく「食べる」ことができる環境づくりの必要性を再確認しました。

イベントは定員
80名満員で開催

先駆的な取り組みや成功事例を全国へ：
ベネッセこども基金MeetUp開催

MeetUpの詳細は【特集1】P3

※各団体の活動内容は、ベネッセこども基金サイトからご確認いただけます。

重い病気を抱える
子どもの学び支援活動助成

活動団体紹介

一般社団法人
在宅療養ネットワーク
所在地：香川県

医療的ケアが必要な子どもたちがいる学校や保育園で、その子ども一人ひとりに合わせた症状をわかりやすく説明する紙芝居を作成。病気のことを、本人も友達も理解を促す参加型読み聞かせや保育士向け研修を実施。

代表の英（はなふさ）さん

病気への理解支援

活動内容

医療的ケア児等への理解を促す参加型オリジナル立体絵本読み聞かせによる心のバリアフリー促進教育テキスト化事業

医療的ケア児は周囲の子どもや大人の理解不足により、受け入れてもらえないケースや配慮のない言葉で傷ついてしまうことがあります。
そこで在宅療養ネットワークでは、医療的ケア児に関わる学校や園で対象児童の特性に応じたオリジナル立体絵本を用いて参加型読み聞かせ事業を実施しました。この心のバリアフリー活動で周囲の子どもや大人たちによる対象児童への関わりに改善がみられました。また香川県各地から団体への研修依頼が増えて、医療的ケア児の受け入れに積極的な学校や自治体が広がりを見せています。

課題

医療的ケア児への理解不足から生まれる周囲とのハードル

- 対応の不安などから受け入れてもらえず自宅と病院以外の居場所がない
- 配慮のない言葉を浴びたり、集団での子ども同士の交流機会が奪われたりする

解決策 1
学校や園でのオリジナル立体絵本の読み聞かせ

医療的ケア児がいる学校や園で、その子の特性に合わせたオリジナル立体絵本を作成し、読み聞かせを実施。（計9回、のべ681人参加）。絵本の仕掛けで、体の仕組みにとって医療的なケアが大切な行為であるという理解促進を行いました。園児・児童向けだけでなく、保育士・教職員向けや行政機関に働きかけ、園長・副園長研修会でも理解教育の講義を実施しました。

保育園での読み聞かせの様子

解決策 2
テキストブック配布による他地域への展開

香川県内の他地域でも心のバリアフリー活動を広げるため、テキストブックを作成･配布。現場の職員の不安を取り除くために、多くの事例や医療的ケアの特性に応じた情報を掲載。団体への研修依頼も増え、医療的ケア児を積極的に受け入れる学校や自治体が広がりを見せています。

オリジナル立体絵本の例

成果

周囲の子どもたちの変化

医療的なケアが大切な行為であることを理解し、対象児や医療器具への配慮ができるようになりました。また対象児を特別扱いせずに対等な関わりが増え、園や学校での医療的ケア実施の拒否が減少しました。

周囲の大人たちの変化

急変時の対応不安などから受け入れに負担を感じていましたが、研修後は医療的ケア児の自立に向けた取り組みに協力が得られるようになりました。自主的な研修も増え、心のバリアフリーの大切さが理解されています。

2021年度募集および決定助成団体

経済的困難を抱える子どもの学び支援活動助成

- 募集期間：2021年11月24日～2022年1月7日
- 応募数：84件　● 採択事業数：6件
- 助成総額：21,313,910円（初年度）
- 助成対象期間：2022年4月1日～2025年3月31日（最大３年間）

募集対象：経済的な理由により学習に困難を抱える子どもたちの意欲を高め、学びに取り組む手助けとなる団体の活動

団体名	申請事業名	所在地	初年度助成額
特定非営利活動法人 eboard	外国人散在地域での支援をサポートする「外国につながる子を対象とした日本語ICT教材」の検証・開発事業	兵庫県	¥4,560,000
特定非営利活動法人 いるか	子どもたちへの包括的な支援活動を持続させるためのファンドレイジング推進及び基盤強化事業	福岡県	¥4,748,050
特定非営利活動法人 COCONI	経済的困難等を抱える中学生のための学校を中心とした支援ネットワークモデルの開発	大阪府	¥3,875,000
一般社団法人 みらいTALK	子どもの生活・学習支援事業 Juice Class＋プラス	静岡県	¥2,976,200
特定非営利活動法人 mia forza	子どもの居場所・みあちゃん家：宮城県内のひとり親世帯の子どもたちを対象とした夕食付無料学習支援事業	宮城県	¥2,858,230
特定非営利活動法人 ゆめみ～る	ワクワクたのしい勉強会	北海道	¥2,296,430

重い病気を抱える子どもの学び支援活動助成

- 募集期間：2021年7月30日～2021年9月24日
- 応募数：22件　● 採択事業数：8件
- 助成総額：計10,775,865円
- 助成対象期間：2022年4月1日～2023年3月31日

募集対象：重い病気により長期入院や長期療養をしている子どもの意欲を高め、学びに取り組む手助けとなる団体の活動

団体名	申請事業名	所在地	助成金額
一般社団法人 チャーミングケア	チャーミングケア研修	大阪府	¥1,462,000
公益社団法人 日本環境教育フォーラムジャパン GEMSセンター	病気の子どもたちが、いつでも・どこからでも体験的な学びにアクセスできるプラットフォームづくり事業	東京都	¥1,617,000
一般社団法人 北海道こどもホスピスプロジェクト	命を脅かす病気を持つ子どもと家族が地域の中で学びを通して豊かに生きることを支える仕組みづくり	北海道	¥1,360,540
認定特定非営利活動法人 ポケットサポート	多職種連携での支援事例を伝え広める WEBアウトリーチ事業	岡山県	¥1,000,000
特定非営利活動法人 未来ISSEY	香川県内におけるがんや難病の子どもとその家族のケアサポート事業	香川県	¥892,000
勇者の会	小児がん患者に対する学習支援および心の発育のサポート	北海道	¥1,302,000
認定特定非営利活動法人 横浜こどもホスピスプロジェクト	乳幼児期のLTCの子どものインクルーシブ教育・保育の推進と橋渡し支援モデルづくり事業	神奈川県	¥1,876,795
認定非営利活動法人 ラ・ファミリエ	病気の子どもの創作・表現の機会を提供する「こどもアーティスト」ワークショップ	愛媛県	¥1,265,530

※ 2021 年度は「被災した子どもの学びや育ちの支援」における緊急助成はありませんでした。

2021年度　決算報告

貸借対照表の要旨（2022年3月31日現在）

単位（円）

		科目	金額
資産の部	1	流動資産	71,309,453
		現金預金	71,187,453
		貯蔵品	122,000
	2	固定資産	336,529,183
		特定資産（事業積立資産）	336,304,343
		その他固定資産（什器備品）	224,840
	資産の部合計		407,838,636

		科目	金額
負債の部	1	流動負債	21,072,554
		未払金	21,004,096
		預り金	68,458
	負債の部合計		21,072,554
正味財産の部	1	指定正味財産（うち特定資産への充当額）	336,304,343（336,304,343）
	2	一般正味財産	50,461,739
	正味財産の部合計		386,766,082
	負債及び正味財産合計		407,838,636

正味財産増減計算書の要旨（2021年4月1日～2022年3月31日）

単位（円）

		科目	当年度	前年度	増減
Ⅰ.一般正味財産増減の部	1.経常増減の部	（1）経常収益	158,077,076	148,951,029	9,126,047
		受取寄付金	158,072,362	146,422,089	11,650,273
		受取寄付金	6,450,865	5,547,094	903,771
		受取寄付金振替額	151,621,497	140,874,995	10,746,502
		雑収益	4,714	2,528,940	△ 2,524,226
		（2）経常費用	158,720,427	149,528,015	9,192,412
		事業費	138,077,076	128,951,029	9,126,047
		支払助成金	62,803,399	54,643,009	8,160,390
		給料手当	24,595,744	24,350,822	244,922
		委託費	11,785,319	12,076,283	△ 290,964
		印刷製本費	13,402,473	8,767,392	4,635,081
		支払負担金	8,952,360	4,639,900	4,312,460
		その他事業費（通信運搬費、制作費など）	16,537,781	24,473,623	△ 7,935,842
		管理費	20,643,351	20,576,986	66,365
		給料手当	6,018,677	5,786,795	231,882
		賃借料	1,743,809	1,585,257	158,552
		制作費	1,507,440	2,880,826	△ 1,373,386
		委託費	6,936,201	6,001,565	934,636
		法定福利費	1,028,132	1,006,369	21,763
		その他管理費（印刷製本費、報酬など）	3,409,092	3,316,174	92,918
		評価損益等調整前当期経常増減額	△ 643,351	△ 576,986	△ 66,365
		評価損益等計	0	0	0
		当期経常増減額	△ 643,351	△ 576,986	△ 66,365
	2.経常外増減の部	（1）経常外収益	0	0	0
		（2）経常外費用	0	0	0
		当期経常外増減額	0	0	0
		税引前当期一般正味財産増減額	△ 643,351	△ 576,986	△ 66,365
		当期一般正味財産増減額	△ 643,351	△ 576,986	△ 66,365
		一般正味財産期首残高	51,105,090	51,682,076	△ 576,986
		一般正味財産期末残高	50,461,739	51,105,090	△ 643,351
Ⅱ.指定正味財産増減の部		受取寄付金	150,000,000	150,000,000	0
		一般正味財産への振替額	△ 151,621,497	△ 140,874,995	△ 10,746,502
		当期指定正味財産増減額	△ 1,621,497	9,125,005	△ 10,746,502
		指定正味財産期首残高	337,925,840	328,800,835	9,125,005
		指定正味財産期末残高	336,304,343	337,925,840	△ 1,621,497
Ⅲ.正味財産期末残高			386,766,082	389,030,930	△ 2,264,848

財団概要

名称	公益財団法人 ベネッセこども基金
所在地	〒206-8686 東京都多摩市落合1-34
設立年月日	2014年（平成26年）10月31日 ※公益財団法人移行日：2015年（平成27年）4月1日

役員

代表理事・理事長	五十嵐 隆	国立成育医療研究センター 理事長
代表理事・副理事長	福原 賢一	株式会社ベネッセホールディングス 特別顧問
理事	耳塚 寛明	青山学院大学　コミュニティ人間科学部 学部特任教授
理事	小見山 智恵子	国際医療福祉大学生涯学習センター 看護部門統括責任者
理事	青柳 光昌	一般財団法人　社会変革推進財団 代表理事専務
理事	マセソン 美季	国際パラリンピック委員会 理事
理事	岡田 晴奈	株式会社ベネッセホールディングス　常務執行役員 ESG・サステナビリティ推進本部長
監事	尾尻 哲洋	税理士

評議員

評議員	髙野 一彦	関西大学社会安全学部・大学院社会安全研究科 教授
評議員	宮城 治男	特定非営利活動法人エティック 創業者
評議員	佐久間 貴子	株式会社ベネッセスタイルケア　取締役・常任執行役員

※2022年7月現在

2022年7月
発行：公益財団法人 ベネッセこども基金
写真　表紙：枦木 功（nomadica）
イラスト：鈴木衣津子
アートディレクション：細山田光宣（株式会社 細山田デザイン事務所）
デザイン：鎌内文（株式会社 細山田デザイン事務所）
印刷・製本：株式会社 協同プレス

公益財団法人　ベネッセこども基金WEBサイト

https://benesse-kodomokikin.or.jp/
活動を紹介するサイトです。
助成の応募情報などもこちらからご覧ください。

公益財団法人　ベネッセこども基金公式Facebook

https://www.facebook.com/
benessekodomokikin2014/

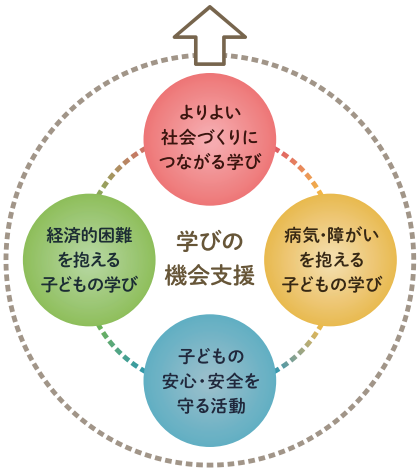
ベネッセこども基金公式YouTubeチャンネル

https://www.youtube.com/channel/
UChU6G-_PuSGA12YHoEBjv-w

（公財）ベネッセこども基金note

https://note.com/kodomokikin

子どもが自らの可能性を
広げられる社会



公益財団法人 ベネッセこども基金